総合開館 20 周年記念事業
初期写真　国際シンポジウム

幕末

20 year anniversary
International Symposium: Photography in Bakumatsu Japan

2017 年 3 月 26 日(日) 15:00～18:00

総合開館 20 周年記念「夜明けまえ 知られざる日本写真開拓史　総集編」展の開催にあわせ、初期写真に関する国際シンポジウム「幕末」を開催いたします。
幕末の開国と時を同じくして、日本にもたらされた写真。芸術作品に用いられる写真、つまり、東京都写真美術館にとって「夜明け」となる以前の写真は、いったいどのようなものだったのでしょうか。また、それらに宿る作品性とはどのようなものなのでしょうか。
本シンポジウムでは、国内外の初期写真研究家をお招きし、歴史資料としても注目される幕末期に制作された写真について、各登壇者による発表とそれに基づく討論を行い、初期写真の意義を再考します。

高橋 則英（日本大学藝術学部教授）
「江戸最後の 20 年と写真」
クリスチャン・ポラック（明治大学政治経済学部客員教授）
「エミール・ド・モンゴルフィエの日本（1866-1873）」
セバスティアン・ドブソン（初期写真研究家）
「プロイセン―ドイツが観た幕末日本―1860-61 年のオイレンブルグ遠征団が残した写真」
ルーク・ガートラン（セント・アンドリューズ大学准教授）
「日本の名刺判写真と清水東谷：横浜写真再考」
范如菀（国立台南大学動画媒体設計研究所助理教授）
「幕末の写真表現性について―外国人写真家が見た日本と台湾」
フィリップ・ダレス（チューリッヒ大学研究員）
「幕末のスイス人写真師：開港期に関するピエール・ジョセフ・ロシエの新発見」

司会：三井圭司（東京都写真美術館・学芸員）

＊同時英語通訳付き

会場：東京都写真美術館 1 階　ホール
主催：公益財団法人東京都歴史文化財団　東京都写真美術館
協力：日本大学藝術学部
定員：190 名
入場無料
当日 10:00 より 1 階ホール受付にて入場整理券を配布致します。

東京都写真美術館
TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM
〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3
TEL 03-3280-0099　www.topmuseum.jp